



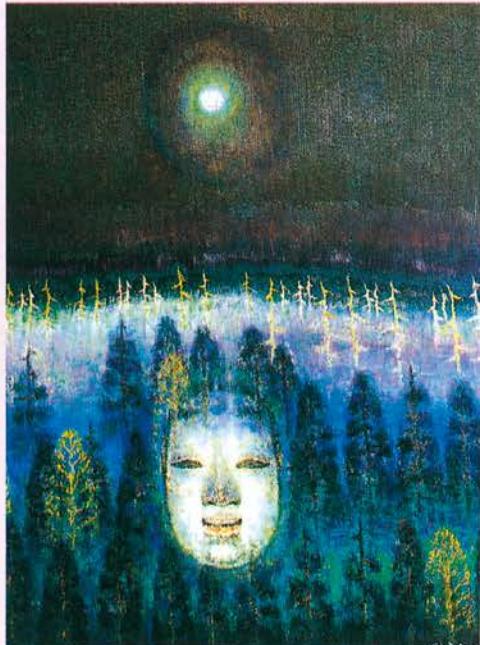
## International Exchange Bulletin

# とちぎ国際交流

第36号

1995年(平成7年)3月号  
編集発行

(財)栃木県国際交流協会  
Tochigi International Association  
〒320 宇都宮市昭和1-2-16  
栃木県自治会館1階・3階  
TEL (0286) 21-0777(代)  
FAX (0286) 21-0951  
相談専用電話 (0286) 27-3399



和氣記念館

塩谷町出身の画家・和気史郎氏は、その整った構図、不気味さが感じられる色彩から「幽玄の画家」といわれています。彼の生家である和気美術館には、抽象から具象の世界に立ち返ってからの30年間の作品が展示されています。

▲開館時間=10:00~16:00 ▲休館日=月曜日・年末年始

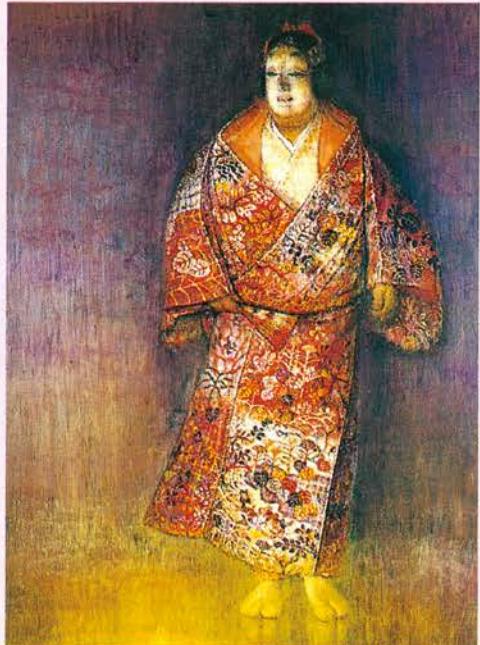
▲入館料=大人300円・小人100円

▲住所・電話=塩谷郡塩谷町玉生648 ☎0287-45-1010 ▲交通=JR宇都宮駅より関東バス玉生行き玉生下車、徒歩2分。JR矢板駅より東野バス玉生下車、徒歩1分。

—WAKI KINENKAN(MEMORIAL MUSEUM)—

With his well-ordered composition, and eccentric, if not sinister, choice of colors, Shiro Waki is reknowned as an artist who exemplifies the Japanese tradition of elegance and simplicity.

A collection of those works which chronicle his transition from the abstract to the concrete, are being exhibited at the Waki Art Gallery(the home in which Waki was born).



Open : 10:00a.m. to 4:00p.m.

Closed : Every monday, and the end of the year,  
new year Holidays

Entrance Fee : Adults : 300 yen

Children : 100 yen

Address : 648 Tamanyu Shioya-machi, Shioya-gun,  
Tochigi

Telephone : 0287-45-1010

Directions : From Utsunomiya : Take the Kanto bus  
from JR Utsunomiya station to Tamanyu.

From Yaita : Take the Toya bus from JR  
Yaita station to Tamanyu.

### 今号の主な内容

- ★青年海外協力隊帰国隊員にインタビュー … P 2
- ★TIA職員の海外研修リポート ……………… P 4
- ★英字新聞制作スタッフに聞く…………… P 6
- ★とちぎコミュニケーションネットワーク開始 … P 8



▲ミクロネシア・コスラエ島の夕焼け

## 中学生の頃から協力隊員参加を希望

——皆さんは、昨年の12月に任期を終え、派遣国から帰国したわけですが、今日はいろいろお話を聞かせていただきたいと思います。まずこの「青年海外協力隊」に参加した動機は何ですか。

**大 島**：外国を見てみたかったのと、外国で仕事をしてみたかったからです。募集はNTTの組合の雑誌で知っていました。しばらく働き、経験を積んでから受けようと思っていた。試験には1回で合格しました。

**臼 井**：私は中学生の頃テレビで協力隊を知り、参加してみたいと思っていました。私の職種（助産婦）は募集資格で「3年以上の経験が必要」となっていましたので、それから応募しました。

**猪 熊**：偶然ですが、私も中学生のときに最初に行きたいと思いました。更に高校に入ると、協力隊OGの先生がいろいろな話をしてくれたり、ますます参加意識が高まりました。そして日本語教師として行ってみたいと思いました。私は2回目で合格しました。



●日本語教室の生徒たちの卒業式  
(前列左から2番目が猪熊さん)



●猪熊由里子さん(26歳)  
日本語教師として、フィリピンのマニラへ、平成4年7月から平成6年12月まで派遣。生徒たちへはタガログ語と英語で指導。岩舟町出身。現在日本語教師。

## インタビュー

### 青年海外協力隊帰国隊員

世界中の発展途上国で日本の様々な技術を伝える「青年海外協力隊」。今回は、昨年12月に帰国したばかりの、栃木県出身隊員3名にお話をうかがいました。

- ・猪熊由里子さん（日本語教師・フィリピン）
- ・臼井位枝さん（助産婦・ミクロネシア）
- ・大島恵一さん（電話交換機技師・ホンジュラス）

——皆さん全員、かなり前から参加を希望していましたということですね。次に、現地での活動状況についてお聞かせください。

**臼 井**：私の勤務先はミクロネシアのコスラエ島の州立コスラエ病院という、いわゆる総合病院でした。島民5千人、直径6～7kmの小さな島です。現地の看護婦は専門がなく、みんなオールマイティにやらなければなりません。私はメインはもちろん産科ですが、他の科の手伝いもしました。看護技術と一緒に働きながら伝達するというのが目的です。看護婦が手伝うときどこに注意するかを主に教えました。

**猪 熊**：フィリピンのマニラにある「貿易研修センター」の日本語教室で、フィリピンのビジネスマンに対し、商業日本語を教えました。基礎的な日本語を、教科書を使い練習します。同時に、日本の文化紹介も行いました。フィリピンの日本語熱は民間では高いのですが、政府がなかなか力を入れてくれなくて…。

**大 島**：私はホンジュラスの首都テグシガルバで、電話交換機技師として指導してきました。ホンジュラスには日本の電話交換機が入ってます。トライフィック（電話回線の流れ）の組織化や電話回路網の改善などをメインに行いました。途中、NTTの短期緊急専門家を要請し、13名の現地人を訓練したこともありました。

## 現地語に日本語の「ガンバレ」

——滞在中に仕事上のトラブルはありましたか。

**猪 熊**：トラブルというか、問題点としては、日本語学習の意欲が長続きしない人が多かったことです。中級クラスをつくりたかったが、人が少なく実現できませんでした。私なりに努力したのですが、空回りばかりで…。先程も言いましたが政府の理解が少ないようです。例えば隊員を呼びたいと申請するが、政府が許可しない。現場が欲しがっているというのにです。

**臼 井**：私の場合、現地の生活環境・習慣を正そうとしても全然直らないということで、最初はいろいろし

ました。病室にゴキブリがいようがアリがいようがかまわない。虫が来るから病室で物を食べるなと言っても守らない。環境が違うから仕方ないなとあきらめましたが、次の隊員も同じことを言い続ければ、いつかは変わるかもしれませんね。

——どちらもストレスがたまりそうですね。それでは、何かおもしろいエピソードをお聞かせください。  
臼井：私はホームステイしていたのですが、それが高台にあるので、ときどき水が出なくなるときがあります。そんなとき雨が降ると、樋から流れ落ちる雨水で頭を洗ったりしました。(笑)。それとミクロネシアは昔、日本軍が統治したことがあるため、日本語が現地語の中にいくつか入っているんです。そのひとつが「ガンパレ」。お産のときは「頑張れ、頑張れ」と言つてれば良かったので楽でした。(笑)。

——日本語が使えるとは驚きです。

大島：私の一番の思い出は、飲み屋で酔っぱらいのおじさんに、いきなり銃をつきつけられたことかな。

——それは危ないですね。大丈夫だったんですか。

大島：警備員が来てくれたので助かりましたが、ひやっとしました。

### 深く考えず、よくよしない性格に

——協力隊員として活動して得たものは何だったのでしょうか。

猪熊：フィリピンでは時間がゆったりしているので仕事をしている意味や、どうしたらもっと良くなるなどを考えることができました。それに、日本を客観

▶お産を手伝つて生まれた赤ちゃん（生後1年）をだく臼井さん（右）



#### ●臼井位枝さん（27歳）

助産婦としてミクロネシアのコスラエ島へ、平成4年12月から平成6年12月まで派遣（現職参加）。現地語のコスラエ語で指導。鹿沼市出身。現在上都賀総合病院勤務。



#### ●大島恵一さん（29歳）

電話交換機技師としてホンジュラスのテグシガルバへ、平成4年12月から平成6年12月まで派遣（現職参加）。スペイン語で指導。栗山村出身。現在NTT宇都宮支店勤務。



◀電話交換機システムの前で同僚の技術者と（左が大島さん）



的に見て、再発見することができました。日本は古いものを大切にしている国だと思います。帰国してからは日本がおもしろくてしかたありません。

大島：一人で仕事をしてみて、何もできなくてがっかりしました。日本にいて大きな組織のなかで仕事をするのとは違いますね。でも、楽しんで仕事をするようになりました。深く考えずよくよしなくなりましたよ。協力隊活動で性格が変わったみたいです。

臼井：私の場合、一人すべてやつたので勉強になりました。責任感がつきました。日本では見えなかつた自分自身が見えたような気がします。

——皆さんそれぞれ、自分なりの何かをつかんだという感じですね。それでは最後に、協力隊に参加したいという人たちへ、メッセージをどうぞ。

大島：「国際協力とは」と気張らず、自分で楽しんでくればいい。2年間しかできないんだから。

臼井：協力隊のイメージを大きく考えないこと。行ってしまえば大丈夫。最初の一歩を踏み出せばいいんです。

猪熊：私は健康を害したことがあったので思ったのですが、普段から運動したり、きちんと生活するペースを身につけておくこと。健康を気にする心がけをもつことが大切です。

——なるほど、リラックスと健康第一の精神ですね。今日はたくさんのお話を聞かせていただきどうもありがとうございました。

※平成7年度青年海外協力隊春募集説明会 ▶4月17日(月)18:30～20:30真岡市真岡公民館 ▶4月24日(月)18:30～20:30足利市民プラザ ▶4月27日(木)18:30～20:30小山市中央公民館 ▶5月19日(金)18:30～20:30大田原市総合文化会館 ▶5月25日(木)18:30～20:30宇都宮コンセーレ

# TIA職員の海外研修リポート

総務課 高嶋 仙子

自治体国際化協会が主催する「地域国際化協会職員海外研修」が平成7年1月24日から2月4日まで行われ、当協会から総務課の高嶋仙子主事が参加しました。

行き先は、香港、中国の桂林市、そしてオーストラリアのシドニー市です。研修を通して学んだことを高嶋がリポートします。

香港では、ジェトロ香港と日本人学校を訪問しました。ジェトロでは経済の面から見た香港の最近の動向についてお話を伺い、日本人学校では学校の概要についての説明を受けた後、施設の見学をしました。

中国桂林では、広西師範学院（日本でいう教育大学）と桂林市对外友好協会を訪問したほか、現地で活動中の青年海外協力隊員の方とお話しする機会に恵まれました。師範学院では学校の概要などを会議室で伺い、その後校内を見学しました。对外友好協会では、桂林市の日本を含む海外との交流活動の実情を知ることができました。青年海外協力隊員の方からは現地での活動やそれにまつ

▶香港の日本人学校を訪問



▲オーストラリアではファームス  
テイを体験

わるエピソードなどを伺うことができました。

オーストラリアでは、自治体国際化協会の現地事務所を訪問したほか、AMESという移民者対象の英語学校と太平洋開発研修センターを視察しました。また、語学指導助手として日本に来ていた方々で構成する同窓会の会員（JETAA）と意見交換をしたほか、ファームステイも経験できました。自治体国際化協会の現地事務所では現地事情などについて伺い、AMESでは直接先生方とお話ししながら施設や授業の見学をし、研修センターではオーストラリアの海外援助の現状を教えていただきました。

今回の研修旅行は、自分が日本国内で関わっている仕事を、海外ではどのように行っているのかを知るよい機会となりました。また、現地の方々と直接接する機会に恵まれたことで、文化・習慣・考え方などの違いをあらためて認識しました。香港やオーストラリアでは特に共存・共生について考えさせられるなど、今後、仕事を続けていく上で参考になることが多く、実り多い研修だったと思います。

富士通FMRシリーズ

## 公益法人会計システム 公 樂

安心 簡単 正確 快適



本システムは「新公益法人会計基準」に基づいて開発された財団法人・社団法人向けの会計システムです。富士通パーソナルコンピュータFMRシリーズに搭載することにより、パソコンに触ったことのない方でも、安心して使え、総合的に会計業務を支援し、事務作業の大変な省力化をお約束します。

販売代理店

株式会社 ケイエムシー

〒321 宇都宮市峰1丁目15番6号  
TEL 0286(32)5111㈹ FAX 0286(33)7269



## こちら国際交流最前線 栃木インドネシア友好協会

栃木インドネシア友好協会は平成5年5月に発足しました。これまで昭和40年に「栃木県日本インドネシア協会」が県議会議長星功氏や宇大教授、県幹部などで設立。昭和56年には「栃木県インドネシア友好の会」が増山瑞比古氏を中心に設立され、上野勝二郎氏が事務局長になりました。その後増山氏が退会しましたが、上野氏の努力と頑張りで活躍しています。

こうした運動の後を受けた友好協会は、インドネシア大好き人間と留学生などで組織化し、役員がそれぞれ責任を分担したボランティア団体として活躍しています。総務、企画、親睦の各委員会に分かれて活動し、毎月定例役員会でこれをまとめています。総務委員会は担当が副会長藤井伸、委員長が柳田邦夫で、総会、涉外、会員対策など。企画委員会は担当が書記長野上孝司、委員長が竹沢敬三（会計担当）で、会費の徴収、研修会、ホームステイ関係、講習会、会報“APA KABAR”的発行。親睦委員会は担当が副会長高橋重三、委員

長が原田章司で、会員の増強、研修旅行や懇親会の企画運営を行っています。

顧問としてご指導いただいている方は、前ジャカルタ知事ウィヨゴ氏、日本インドネシア議員連盟会長渡辺美智雄氏、矢野哲朗参議です。

留学生のリリクが学生会長を務めていましたが、3月に卒業しますので、シャフルルが後任です。3月5日には留学生など11名の送別会を行い、スマトラやジャワ東部の踊りを披露しました。

(会長 阿久津昂)



▲ジャワ島ボゴールの近く、リド村で村人達と踊る会員

## 在県外国人紹介 イセ ピヤナンさん(35歳) タイ王国出身



TIAのインター・ボランティアバンクに登録したピヤナンさんは、タイのバンコク出身。平成元年に来日し、日本人と結婚後、宇都宮に住みはじめました。「初めは日本語が全然できません

でしたが、テキストなどでひとりで勉強してようやくわかるようになりました」と話すピヤナンさん。日本語はとてもお上手です。

現在は離婚され、市内のホテルで仕事をするかたわら、企業でタイ語を教えたりしています。

「タイに5歳の娘がいます。毎年帰国しては会っています。母と妹が面倒をみてくれるので、寂しがってはいないようです。昨年は学校の入学手続き等で3度も帰りました。」

タイでは今、子どもの教育に熱心な親が多いそうです。大学を出てあたりまえという風潮で、いい仕事を得るには、さらに留学して勉強しなければならないとのこと。ピヤナンさんも娘さんの将来が気になるところです。

これまで日本に住んで、どんなことを感じましたかとの質問に、「日本人は礼儀正しいですね。例えば役所で書類などをもらうとき、丁寧に応対してくれるのには驚きました。タイでは役所の人は威張っていてひどいものですよ」と答えてくれました。

「来年の3月でビザがきれますが、更新したいです。日本で6年間も生活しましたのですっかり慣れてしまいました。日本料理も得意になりました。できれば日本にずっと住みたいですね」と笑顔で話すピヤナンさんでした。

## 英字情報誌制作スタッフに聞く 県内で活躍する外国人・日本人

### TOCHIGI TIMES (栃木タイムズ)

創刊は1988年2月。「TOHOKUSEN」という名称で親しまれていきましたが、94年6月、「時代にあった名称に」と、現在の“TOCHIGI TIMES”に変更されました。



編集長は、英語指導助手として宇都宮市内中学校で教えているマイケル・ライオンズさん(24歳・アメリカ出身・写真右)。大学時代、4年間新聞部で活動していた彼は、記事を書くのが大好きだそうです。そして、事務局長の鈴木美恵子さんは日本人スタッフのリーダーとしてTOCHIGI TIMESを支えています。「現在のスタッフは外国人4名、日本人4名です。皆さんそれぞれ仕事を持っているので、仕事の合間に作っています」と

話す鈴木さん。毎号苦労して作成しているようです。

内容は、季節関連記事、映画情報、会館の催し物案内、外国人の生活相談情報など栃木県の外国人に役に立つ情報の他、読者からの投稿も盛り込まれています。「部数をもっと増やしたいのですが、資金が不足していて…。広告を出してくださるスポンサーを探しています。また、言語を問わず投稿記事を広く募集しています。それと編集スタッフ(外国人・日本人を問わず)希望者もご連絡ください」とPRする2人。意欲満々です。

なお、会員制度(法人1万円、個人3千円)があります。TOCHIGI TIMESを郵送しますので、ご希望の方は下記の連絡先までどうぞ。

【データ】TOCHIGI TIMES ▷毎月発行(1、8月を除く)  
▷発行部数600 ▷無料配布 ▷締切=前月の17日 ▷TIA、宇都宮ブックセンター等で配布 ▷投稿先=〒320 宇都宮市中戸祭町865-5 鈴木方 ▷連絡先=マイケル・ライオンズ☎0286-43-0843、鈴木美恵子☎0286-22-1066

### NETWORKING (ネットワーキング)

3年前の1992年に、ビル・バートンさん(40歳・アメリカ出身)が創刊。「面と向かって話すと言えないことを、紙面を通して正直に語り合う」というコンセプトで、外国人が日本で生活する上で生じる不安や、日本のおかしな点などについて、いろいろな角度から意見を述べるという内容でスタートしました。その後、国際交流活動を続けてきた郷間康久さん(33歳・宇都宮市職員)が加わり、日本語版編集長として活動を開始しました。

英語版はレギュラーのエッセーをはじめレストラン情報等が、一方日本語版は特集、投稿記事、生活情報等が掲載されています。「これからは英語の記事のなかで、日本人に読んでほしい内容はどんどん翻訳して掲載していくみたいです。翻訳の好きな人



▲ビル・バートンさん



▲郷間康久さん



▲トマス・ヒッキさん

や書くことが好きな人がいたら、どうぞご連絡ください」と話す郷間さん。また、新編集長のトマス・ヒッキさん(30歳・アメリカ出身)は「いろいろな人から投稿してほしいです。ビルが築いたものをベースにして、今後も続けていきたい。それに広告スポンサーを探していますので、よろしくお願いします」と話してくれました。

【データ】NETWORKING ▷毎月発行(8月を除く) ▷発行部数1200 ▷無料配布 ▷締切=前月の20日 ▷TIA、宇都宮ブックセンター等で配布 ▷投稿先=〒321 宇都宮市平出町2560郷間方(日本語)、〒320 宇都宮市松原2-4-5 高橋ハイツ106(英語) ▷連絡先=郷間康久☎0286-61-2458、トマス・ヒッキ☎0286-22-0920

## 国際交流Q&A（厚生年金脱退一時金/パートII）

Q. 近々帰国をしようと考えているブラジル人から厚生年金脱退一時金について聞かれました。詳しく教えてください。

A. 前号（第35号）では、該当条件等について説明いたしましたが、今号では、具体的な手続き等についてお話しします。

まず、出国前に社会保険事務所又は市町村役場で「脱退一時金裁定請求書」を入手してください。

次に、出国後、その書類に必要事項を記入の上①年金手帳②パスポートの写し（出国年月日、氏

### プロヴァンス地方に出発！栃木県日仏青少年短期研修事業フランス派遣高校生決定

栃木県の友好交流県であるフランス・ヴォーアクリューズ県で、高校体验通学とホームステイを中心にフランス文化を学ぶ「栃木県日仏青少年短期研修事業」の派遣高校生5名が決定しました。一行は、3月17日～3月30日の日程で、南仏プロヴァンス地方を訪問します。

▶団長＝原山光史（栃木県県民生活部国際交流課主査） ▶派遣高校生＝飯野真由子（真岡女子高校）、板橋将（那須拓陽高校）、北崎朋美（栃木南高校）、新里記子（栃木女子高校）、森安矢（宇都宮海星女子学院高校）（敬称略）



前列から飯野、新里、森、後列  
左から北崎、板橋、原山（敬称略）

## コミュニケーションの未来型を見つめて

- 印刷部門ではエレクトロニクス技術を駆使した文字・画像処理などコンピュータ・プリントシステムの採用と企画デザイン面の充実で、より美しく、正確でスピーディーな印刷を実現しています。

印刷からビデオ制作まで

株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷

本社/〒321 宇都宮市平出町4287-7 TEL 0286-62-2511(代) FAX 0286-62-4278

営業所/東京・越谷・那須北 工場/本社工場・第2工場(平出)・第3工場(黒羽)・仙台・杭州(中国)

名、生年月日が確認できるページ) ③銀行名、口座番号等の確認できるものの3点を添付し、社会保険業務センター（〒168 東京都杉並区高井戸西3丁目5番24号）へ、送付してください。

なお、平成6年11月9日から平成7年3月31日までの間に出国した方は、平成7年4月1日以降に到着するようにしてください。

支給は、請求書に記載された「脱退一時金振込先口座」に、現地の通貨で支払われます。その際に、厚生年金は20%の所得税が源泉徴収されます。

## 協会日誌(1995.2.1～1995.3.31)

2/6～8	県費留学生・海外技術研修員スキーリング (協会事務局)
2/11	在県外国人との座談会 「栃木県人になってみて」 (UK II)
2/15	国際交流懇談会 (自治会館会議室)
2/24	協会職員採用第1次試験 (自治会館会議室)
2/24 ～3/3	日伯修好100周年記念 「ブラジルの旅」 (㈱日本旅行)
2/26	県費留学生・海外技術研修員との料理交歓会 (栃木県海外移住家族会)
3/1	海外技術研修員最終ミーティング
3/2	県費留学生最終ミーティング
3/8	県費留学生・海外技術研修員修了式 (県公館)
3/17～30	栃木県日仏青少年短期研修事業 (高校生仏国派遣)
3/20	協会評議員会 (自治会館会議室)
3/22	協会理事会 (自治会館会議室)
3/24	県費留学生・海外技術研修員帰国

## TIA Information Corner

### 外国人のネットワーク

「とちぎコミュニケーションネットワーク」にご参加を！

TIAでは、栃木県に住んでいる外国人の皆さんとのネットワークをつくるため、皆さんからの登録をお待ちしています。登録されると、国際交流のイベントなどのお知らせ、役に立つ情報の提供を受けられる他、いろいろなイベントに協力していただきます。

登録申込書はTIAにありますので、ご希望の方は、直接お越しになるか、ご連絡ください。

●The TIA would like to invite you to participate in the Tochigi Communication Network.

The TIA is gathering names for a network comprised of foreigners living in Tochigi Prefecture. Once enrolled, members are entitled to international exchange announcements, useful information, and may join in a variety of events.

Those interested are encouraged to contact the TIA.

●A TIA convida os estrangeiros residentes nesta província para participar de "Tochigi Communication Network"(Rede de Comunicações).

Para aprofundar o vínculo com os estrangeiros, a TIA espera a inscrição de todos os estrangeiros. Os inscritos receberão os avisos de

eventos de intercâmbio cultural, informações úteis e, poderão participar de várias festividades.

As fichas de inscrição se encontram na TIA. Os interessados, favor, entrar em contato com a TIA.

●La TIA invita a los extranjeros residentes en esta provincia para participar de "Tochigi Communication Network"(Red de Comunicación).

Para profundizar la comunicación con los extranjeros, la TIA espera la inscripción de todos los extranjeros. Los inscriptos recibirán los avisos de festividades de intercambio cultural, informaciones útiles y podrán participar en varios festejos.

Las fichas de inscripción se encuentran en la TIA, las personas interesadas favor entrar en contacto con la TIA.

●住在栃木县，外国人的联络网，欢迎来参加。／

「栃木交流联络網」

TIA为了编写住在栃木县外国人的联络网，正等待着大家来登记，登记之后，会通知您国际交流的活动及提供您有益的情报，另外各式各样的活动也会请您协力帮助，需要报名书的人请直接到TIA来索取或打电话联络 TEL (0286) 21-0777

### 編集後記

○1月、2月は風邪が大流行。TIAスタッフも次々にやられました。海外研修に参加したT嬢は、出発当日、インフルエンザでダウン。病院で点滴を打ち、薬をいっぱい持って、死にそうな顔で成田空港を飛び立ちました。(彼女を送ったUは風邪をうつされた！)

○研修中パワーを蓄積し元気に帰国したT嬢は、なにやらうれしそう。訳を聞くと研修メンバーの女性がすべて独身だったとのこと。そこで彼女、「私は下から2番目だった」とか、「この業界は独身女性が多い」とか、挙げ句は「結婚なんてしなくても大丈夫」などと、毎日まくしたてています。悟りの境地に達したというか、開き直ったというか。あな恐ろしや…。

兵庫県南部地震で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

### ●ご案内図



\*財団法人栃木県国際交流協会では、各企業・団体からのご出捐をお願いしております。当協会の事業にご賛同下さるみなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。